



群馬大学 (群馬県)



日本語・日本文化、教育学、社会情報学を学び、地域社会の視点から日本の文化を考察する。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

(1) 特色と歴史

群馬大学は1949年に設立。東京から北西に約100 kmに位置し、教育学部、社会情報学部、医学部、理工学部、生体調節研究所、附属図書館、医学部附属病院、国際センター等の各部局で構成している。

教育学部は、グローバルに物事をとらえながら、未来社会を支える人間を育成するために、人間の発達と成長を主な対象として教育の目的、方法、および内容などについて理論的・実践的な教育・研究を進めている。教育学部には、教員養成を主たる目的とする課程があり、5系・13専攻に分かれながら、深い専門性と実践的な指導方法を身に付ける。

社会情報学部では、社会と人間を「情報」という視点から捉えた「社会情報学」を学ぶ。社会情報学の目標は、人間のコミュニケーションを取り巻いている社会のシステムを分析し、今後の課題を明らかにしていくことである。そこで、情報科学と人文・社会科学を融合し、学際的、国際的な教育・研究を進めている。

国際センターでは、留学生のための日本語・日本事情科目を開講し、学習相談を実施している。また日本研究のため「武道」「日本美術」「邦楽」という実践科目も履修でき、総合的に日本理解ができるプログラムが用意されている。

(2) 教員・学生数等 (2018年5月1日現在)

教員数：899人
学生数：学部 5,134人、大学院 1,346人

② 国際交流の実績 (2018年5月1日現在)

留学生在籍数：280人 (22カ国 1地域)
海外の大学との交流協定：145件 (35カ国 1地域)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2018年：留学生数280人、日研生4人
2017年：留学生数247人、日研生5人
2016年：留学生数225人、日研生3人

④ 地域の特色

関東平野の北に位置し、美しい山々に囲まれ、温泉も多く、1年を通じて四季折々の自然豊かな景色・産物が楽しめ、東京近郊から電車で約2時間ほどである。一方、外国人が急増し、その多文化共生のため様々な活動を群馬大学が実施し重要な役割を果たしている。

■コースの概要

① 研修目的

本コースは、日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行うものである。

② コースの特色

本学では日本語・日本文化研修プログラムを通称「Jプログラム」として、日本語の能力や技能を高めながら、日本を研究対象とする諸研究を行うのに必要な知識を身につけることを目指す。プログラム期間中に行われる諸活動に参加することで、日本語や日本文化、日本社会についての理解を深めることができる。

本人の希望する専門分野により、教育学部又は社会情報学部のいずれかの研究室に所属し、更なる日本語能力の向上と並行して、専門性をより高めることを目的としている。

また、例年、当プログラムが行われる荒牧キャンパス

には多数の交換留学生在籍しており (2018年度は6協定校から15名)、日本語能力試験N1級レベルや大学院レベルの交換留學生もおり、短期留學生が多様なレベルで存在している。

そのため、交換留學生のための日本の伝統文化を学ぶプログラムも用意されており、日本画、邦楽 (箏、三絃) の実技を専門家から学ぶ機会もあり、日本文化をより深く学ぶことが出来る。

③ 受入定員

7名 (大使館推薦3名、大学推薦4名)

④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 一般的な会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目の内容を理解する者。日本語能力試験N2級以上相当が望ましい。

(2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者。

⑤ 達成目標

修了時に、日本語で研究論文を作成し、自分の研究について口頭発表や質疑応答ができるようになること。



2018-2019年度 日研生、交換留學生

⑥ 研修期間

2019年10月1日～2020年9月30日
(修了式は行わない予定です。)

邦楽器演習



⑦ 研修科目の概要

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。日本語、日本事情、伝統文化実践科目、学部・教養科目から履修する。必修科目は以下のとおり、全体で480時間が必要となる。

1) 必須科目

授業の種類	第1期(10-3月)	第2期(4-9月)
日本語	4クラス/4単位 (120時間)	4クラス/4単位 (120時間)
学部・教養教育科目	6クラス/6-12単位 (180時間)	
J特別講義*1	1クラス/2単位 (30時間)	
課題研究(個別指導)*2		1クラス (30時間)

*1: 「日本における研究」をテーマに、学内教員によるオムニバスの特別授業
(協力教員14名/半期)

*2: 課題研究は指導教員による論文指導である。第2期の終わりにプレゼンテーションをして、論文を提出しなければならない。



科目名	学期	時間数	授業内容
日本語A(口頭表現)	秋・春	60	聴解・会話、発表演習
日本語B(総合)	春	30	読解、作文、プレゼンテーション
日本語D(総合)	春	30	中級文型の理解・運用
日本語E(読解)	秋	30	文章読解、要約
日本語F(読解)	秋・春	60	専門書読解、要約・作文練習
日本語G(論文作成)	秋・春	60	レポート・論文作成
日本語H(作文)	春	30	文章表現、レポート作成
日本語I(口頭表現)	春	30	聴解・会話、発表演習
日本事情A	春	30	日本文化論講座
日本事情B	秋	30	日本の政治・社会
日本事情C	春	30	日本の文化・社会
邦楽器演習	秋・春	各60	三絃・箏演習
日本美術演習	秋・春	各60	日本画演習

2) 見学、地域交流等の参加型科目

<見学>

年に1回、留学生と日本人学生合同で、近隣県の研修旅行(1泊2日)を予定している。その他、日本美術の一環で、東京や千葉、県内の美術館等への日帰り見学を定期的に行う。



留学生実地研修旅行(東京)

<地域交流>

群馬県内の小学校や中学校から国際理解講座の授業への留学生派遣依頼に応え、Jプログラムの学生が積極的に訪問している。また前橋市国際交流協会が実施するホスティングプログラムへの参加、講師としてイベントへの派遣など、地域住民との交流も活発に行っている。

3) 修了研究の内容

①日本語・日本語教育研究、②日本文化・社会研究、③日本文学研究という三分野に分かれている。2018年度修了者は、①2名(「勧誘場面における『誘うストラテジー』に関する性別の影響」、「インドネシア語母語話者と日本語母語話者における不満表現の対象」)、②2名(「クール・ジャパンの国際交流基金の関係」、「男女平等社会 日本とモンゴルにおける政治分野のポジティブ・アクションの可能性」)③1名(「谷崎潤一郎の初期作品におけるグロテスク」)だった。

4) 日本人学生との共修の機会

1年生対象の教養教育科目「日本事情」では文理さまざまな日本人学生とグループワークを行う。また所属する学部の演習等で日本人学生と議論できる。

5) その他の講義、選択科目等

教育学部と社会情報学部で開設される専門科目の授業、教養科目授業から選択する。

⑧ 年間行事

9月下旬 渡日

10月 新入学留学生受入式
オリエンテーション
留学生相談会
チューターオリエンテーション
留学生特別健康診断
インターナショナルキャンプ

12月 各学部留学生懇談会

1月 伝統文化実践科目邦楽演奏会

3月 茶道、書道、華道の伝統文化体験

4月 全学健康診断

8月 Jプログラム研究報告会

伝統文化実践科目邦楽演奏会

9月 Jプログラム研究論文提出

9月下旬 帰国

⑨ 指導体制

(1) コーディネーター：野田岳人教授

(2) 指導体制：

学部の指導教員と国際センターの教員が、研究指導及び修了研究のための指導を行う。その他、国際センター教員（生活相談を含む）やチューターの日本人学生が日本語学習や日常生活の支援する。



インターナショナルキャンプ



⑩ コースの修了要件

コースの修了にあたっては、必修科目420時間、選択科目等60時間以上を受講し、日本語による論文発表会を行い、口頭試問の上、成績優秀者については修了証書を発行する。

成績判定にあたっては、学部指導教員と国際教育・研究センター教員による修了判定委員会で総合的に判断される。

⑪ 単位認定、単位互換

必要があれば、各所属学部で成績証明書の発行可能。単位互換は、在籍大学の判断による。

■ 宿 舎

キャンパスから4km離れたところに群馬大学国際交流会館（前橋）がある。单身室22室があるが、常に学部、大学院留学生等により満室状態である。

大学は、原則日研生のために、キャンパスに近い民間アパートを準備する。おおよそ30,000円/月程。その他、公共料金（電気、ガス、水道、インターネット、携帯電話）が10,000～20,000円/月程必要となる。同時期に来日する交換留学生用のアパートと同様の扱いを行う。

■ 修了生へのフォローアップ

Jプログラム修了生のデータベースを作成する。また、日本への大学院進学などについて、助言・相談を実施する。



Jプログラム研究報告会

■ 問合せ先

<担当部署>

群馬大学国際課

住所 〒371-8510

群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL +81-27-220-7637（直通）

FAX +81-27-220-7630

E-mail g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp

<担当教員>

国際センター教授 野田 岳人

E-MAIL nodat@gunma-u.ac.jp

<ウェブサイト>

群馬大学ホームページ

<http://www.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学国際センターホームページ

<http://www.guic.gunma-u.ac.jp/>